

公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

2015年（平成27年）度事業報告

〔2015年（平成27年）4月1日～2016年（平成28）年3月31日〕

毎日新聞大阪社会事業団、2015年度のトピックス

世界子ども救援キャンペーン



2015年度は8月30日から10月15日まで大阪本社社会部・武内彩、写真部・幾島健太郎の両記者をネパールに派遣した。「最貧国で生きる女の子」をテーマに、性差別や児童結婚（18歳以下での結婚）など、厳しい環境の中で生活する少女の姿を中心に、人身売買などの現状と4月25日に発生した大地震のその後なども取材。「少女たちの祈り ネパールから」のタイトルで、10月26日付朝刊から11月1日まで6回にわたり連載した。11月22日、12月4日には見開き特集も掲載した。

配食サービス車「在宅サービス供給ステーション静華苑」に贈呈



国際高齢者年の1999年から始めた「配食サービス車贈呈事業」は、3月から毎日新聞紙面などで一般公募し3団体からの応募があった。6月に外部の選考委員による選考委員会があり、社会福祉法人慶徳会「在宅サービス供給ステーション静華苑」に決定。9月2日に大阪府茨木市の静華苑で贈呈式を開き、配食車1台を贈った。

関東・東北豪雨災害救援金



茨城県や宮城県などで土砂崩れや河川氾濫による浸水被害が出たことから9月12日、毎日新聞紙面で「関東・東北豪雨災害救援金」の募集を開始。1月末日までに591件、874万円が大阪社会事業団に寄せられた。日本赤十字社本社や同茨城県支部などへ858万円を贈呈した。

各公益事業ごとの事業報告詳細

(1万円以下は切り捨てて表示しています。)

公益事業 1 国内外の福祉に関する事業

(事業種別3, 4, 6, 7, 11, 12, 15)

「社会福祉のために」などと寄せられた一般寄付金は、3月末日現在で379件3,534万円(小児がん制圧募金を含む)。歳末の「チャリティー名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」の売上と歳末義援金の合計3,232万円、総計1,250件6,767万円となった。これらの寄託金をもとに次の事業を行った。

児童福祉に関する事業

主催事業

(主催公演事業 事業区分17)

◎「施設児童就職予定者研修会・就職する生徒に祝い金贈呈」

(支払負担金より91万円を支出)

大阪府内の児童福祉施設から中学、高校などを卒業して就職する生徒を対象に、社会人としての心構えなどを聴く研修会を2月6日、大阪市天王寺区で開催した。また、その会場で大阪府内の児童福祉施設から高校、短大を卒業して就職する91人(全員)に激励の意味を込め、祝い金を1人1万円ずつ贈呈。社会福祉法人大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、大阪府社会福祉協議会と共催。

(研修会は1975年～・祝い金は1962年～)

共催分担金事業

(その他特定団体や弱者への救援事業 事業区分18)

◎平成27年度ゆうゆう(フレンドシップ)キャンプ

(支払負担金より40万円支出)

1997年からの継続事業で19回目。被虐待児童を対象に、共同生活を通じて自立心や社会性を育てることを目的としている。8月11、12日に大阪府岬町の大阪府立海洋センターで1泊2日のキャンプを実施。ケースワーカーらを含めて25人が参加した。10月18日に大阪府河内長野市の関西サイクルスポーツセンター、2016年2月6日には吹田市自然体験交流センターで日帰りキャンプも実施。大阪府青少年活動財団、府下の児童家庭相談室と共催。主催者分担金として40万円を支出した。

◎大阪交通遺児を励ます会との近畿地方ボウリング大会

(支払負担金より60万円を支出)

6月14日、大阪市北区梅田の桜橋ボウルで近畿各地の交通遺児をはじめ、病氣

・災害遺児らとその家族など90人が交流した。大阪交通遺児を励ます会と共催。開催経費60万円を分担助成した。

◎「第30回駅伝・ロードレース大会」（支払負担金より5万円を支出）

1月23日、大阪市が管轄する児童福祉施設の小・中学生300人が参加する駅伝ロードレース大会を、吹田市の弘済のぞみ園グラウンドで開催。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

◎「第47回新春こども大会」（支払負担金より10万円を支出）

1月31日、大阪市が管轄する児童福祉施設の子どもたちが、冬休みに練習した踊りや演劇などを発表する「新春こども大会」を、大阪市の天王寺区民ホールで開催した。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

◎平成27年度「明治村」小学6年生一泊交流会（支払負担金より10万円を支出）

2月27日～28日、大阪市が管轄する児童福祉施設の6年生40人を、愛知県犬山市の博物館「明治村」などに招待した。例年、夏に開催している野外活動事業の代替事業。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

（キャンペーン事業 事業区分8）

◎「母の日・父の日募金キャンペーン」（支払助成金より61万円を支出）

「プレゼントをあげる親がもういない」という声をきっかけに始まった「母の日・父の日募金キャンペーン」。5月9日、6月17日付毎日新聞紙面で募金を呼びかけ、44件61万円が寄せられた。この中からNPO法人児童虐待防止協会へ20万円、CVV（社会的養護の当事者支援活動）へ20万円、あしなが育英会に21万円を贈呈した。

児童福祉特定団体助成・支援事業（文末のカッコ内は：支払助成金または経費）

* 就労支援事業サポートいずみ「平成27年度自立支援研修・いずみサロン・職業体験研修」＝5月2日～2016年1月23日、名古屋市内の児童養護施設で暮らす中学2年～高校3年生ままでを対象に、名古屋市中村区の中村生涯学習センター等で調理体験や職業体験を通じ就労について学び、自立のための支援を行った。社会福祉法人昭徳会 就労支援事業サポートいずみの主催。本団が助成後援した。（39万円）

* 社会的養護の当事者推進団体「なごやかサポートみらい」学習会・茶話会、なごやかサロン、講演会＝6月28日～2016年3月27日、社会的養護にかかわる当事者が自らの体験をもとにした学習会や茶話会（3回）、講演会・シンポジウム（1回）をはじめ、定期的に社会的養護の下で暮らしている子どもたちが集まり、進路の相談などを気軽に話せる「なごやかサロン」（10回）を同会事務所（名古屋市北区西志賀町3）や、県司法書士会館（名古屋市熱田区新尾頭1）で行った。特定非営利活動法人なごやかサポートみらいの主催。本団が助成後援した。（49万円）

* 母子生活支援施設「母と子の一泊旅行」＝7月11～12日、大阪府内の2民間母子寮の母子40人を、和歌山・白浜温泉と白浜アドベンチャーワールドへのバス旅行に招待。大阪府民間母子生活支援施設連絡協議会の主催。本団が単独で助成後援した。(28万円)

* 平成27年度琵琶湖セツルの家＝7月1日～8月31日、滋賀県大津市青柳浜の琵琶湖畔に宿泊施設を開設し、保育所、児童館、子供の家などの利用者に開放。大阪市地域福祉施設協議会の主催。本団が単独で助成後援した。(8万円)

* 「2015年ふれあいキャンプ」＝8月17～19日、愛の手運動(里親さがし運動)を展開する家庭養護促進協会が主催する小学1年生以上の里子を対象としたキャンプ。大阪府泉南市の紀泉わいわい村で開催。本団が単独で助成後援した。
(18万円)

* 平成27年度「第62回児童福祉施設スポーツ大会」＝8月19日～20日、名古屋市の大高緑地公園野球場で開催。(1万円)

* 社会福祉法人大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部講演会「施設生活と発達障害との微妙な関係 パート2」＝9月12日、北海道大学名誉教授・児童精神科医の田中康雄さんを招き、児童福祉施設・児童相談所職員等を対象に、発達に課題を抱える子どもへの具体的な関わり方を実践的にアドバイスする講演会を「ホテルアウイーナ大阪」(大阪市天王寺区)で開催。同アフターケア事業部が主催。本団が単独で助成後援した。(50万円)

* 「第43回北摂養護施設連盟北摂子ども大会」

12月12日、北摂地域の児童養護施設などに暮らす子どもたちのスポーツ大会を、茨木市中央公園(北)グラウンドで開催。日頃の練習の成果を披露し、他施設との親睦を深めた。本団が助成後援した。(10万円)

助成を伴わない事業

* 児童施設に絵を贈る運動

子どもたちの情操教育のために「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」に寄せられた絵画を、愛知・岐阜・三重県内の児童養護施設に9点贈り、2月18日には大阪市が管轄する高津学園など児童福祉施設3カ所にも各1点を贈った。

* 児童養護施設入所児童で来春就職予定児童を対象とした「平成27年度自立生活技術講習会(ソーシャル・スキル・トレーニング)」の名義後援＝7月4日～2016年2月6日(計13回)、大阪市の市立社会福祉センターなどで開催。

高齢者福祉に関する事業

主催事業

(助成「応募型」事業 事業区分13)

◎配食サービス車贈呈事業(支払助成金より170万円を支出)

*2015年度のトピックスで紹介。3ページをご参照ください。

医療福祉に関する事業

(キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8)

◎「小児がん征圧キャンペーン」(支払助成金より180万円を支出)

毎日新聞社と展開しているキャンペーン「生きるー小児がんのこどもたちとともに」と連動した「小児がん征圧募金」は、4月～2016年1月末までに85件2,888万円が寄せられた。1996年からの継続事業で3月2日、大阪社会事業団にて次の6団体に各30万円ずつ計180万円を贈呈した。

1. チャイルド・ケモ・サポート基金(神戸市)
2. 日本クリクラウン協会(大阪市)
3. 近畿小児血液・がん研究会(吹田市)
4. 京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ
「にこにこトマト」(京都市)
5. 京都ファミリーハウス(京都市)
6. あいち骨髄バンクを支援する会(名古屋市)

上記、「小児がん征圧募金」2,888万円の内2,674万円が、昨年末に1人の女性から寄託された。この2,674万円は特定費用準備資金、特定資産「AK基金」として計上し、2016年度から23年度までの8年間、経費を含めて毎年334万円ずつを小児がんの子どもたちの支援や研究に取り組む団体に贈る。

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	合計
334万	336万	2,674万円						

心身障害者福祉に関する事業

(その他特定団体や弱者への救援事業 事業区分18)

共催分担金事業

◎第18回視覚障害者ICT・サポートボランティア講習会

(支払負担金より30万円を支出)

1997年度からの継続事業で視覚障害者の情報環境を支える機器(インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー)を利用する視覚障害者に、操作方

法などを教える指導者養成のための講習会を5月～11月、全11回開講。今年は視覚障害者当事者を対象にしたICT機器の体験講習会を実施。希望者を公募しiphone、スマートフォンなどについて学んだ。社告等で受講者を募集。各回4～26人が受講。日本ライトハウス情報文化センターと共催。

◎第28回専門図書点訳・音訳講習会（支払負担金より100万円を支出）

専門図書の点訳、音訳の技術を修得するための講習会で、下記の4講座を開講した。受講後は点訳・音訳ボランティアとして活躍してもらおう。日本ライトハウス情報文化センターと共催。

- ・専門点訳講習会「東洋医学コース」5月12日～8月4日。全12回。19人。
- ・専門音訳講習会「音声表現技術コース・会話文の読み方編」
11月6、12、18、24日。各日10人。
- ・専門音訳講習会「デイジー編集コース【応用編】」2月12、17日。各日8人。
- ・専門音訳講習会「デイジー編集コース【基礎編】」
3月18、19日。2日間、36人。

◎2015年度「声の点字毎日」の発行を助成（支払負担金より10万円を支出）

全国の国立ハンセン病療養所で生活している視覚も皮膚感覚も失った人たちに点字新聞を発行する点字毎日の「声の点字毎日デイジー版（月2回発行）」を寄贈する事業。費用の一部を、東京・西部社会事業団とともに10万円ずつ分担した。

（表彰、コンクール事業 事業区分14）

◎「全国盲学校弁論大会」（支払負担金より20万円を支出）

10月2日、第84回全国盲学校弁論大会が静岡県のクリエート浜松で開かれ、福島県立盲学校高等部専攻科理療科1年の渡辺健さんが優勝した。毎日新聞社点字毎日、全国盲学校長会と共催。本団は2002年度から共催に加わる。（1928年～）

心身障害者特定団体助成・後援事業（文末のカッコ内は：支払い助成金）

*「第50回全大阪ろう社会人軟式野球秋季大会」＝7月12日と8月2日、大阪府久宝寺緑地公園軟式野球場などで開催。本団が助成後援した。（ﾌﾟﾘｶﾞ代1万円）

*「第40周年記念わたぼうし音楽祭」＝8月2日、奈良市の奈良県文化会館で開かれ、わたぼうし大賞に大阪市の丸井沙季さん（14）作詩、京都市の黒木祐里さん（22）作曲の「花」が選ばれた。奈良たんぼぼの会主催の同音楽祭を、毎日新聞社とともに本団が後援助成した。（記念大会のため大阪のみ30万円・東京10万円・西部5万円）

*「第43回愛知心理療養キャンプ」＝8月18～23日、愛知県蒲郡市のホテルボンセジュールで開催。本団が助成後援した。（3万円）

*「全国盲学校野球（グランドソフトボール）大会」＝8月19～21日、愛知県岡崎市の岡崎中央総合公園運動広場・球技場で開催。本団が助成後援した。

（10万円）

*名古屋市視覚障害者協会が発行する機関紙「のぞみ」第36号発行＝1月に発行する発行費用を助成した。（3万円）

その他の社会福祉事業団体の事業助成

（助成（応募型）事業 事業区分13）

◎「公募福祉助成金制度」（支払助成金より80万円を支出）

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事业でどこからも援助がない団体へ、一般公募での事業助成金制度。11月11日に紙面で告知。1月28日に選考委員会を開催。申請のあった6団体の内、下記の3団体に総額80万円を贈呈した。

1. 一般社団法人アンビシャス・ネットワーク 30万円
2. 社会福祉法人神戸真生塾 子ども家庭支援センターロータリー子どもの家 20万円
3. 一般社団法人ひだまり 30万円

その他目的を達成するために必要な事業

（表彰、コンクール事業 事業区分14）

◎「毎日社会福祉顕彰」（支払負担金として174万円を支出）

毎日新聞大阪社会事業団創立60周年記念事業として始め、45回目。社会福祉の分野で献身的な活動をしている個人、団体を顕彰する。毎日新聞紙面などで公募し5月末に応募を締め切り、厚生労働省や大学教授らからなる審査会を経て、次の3団体が選ばれた。贈呈式は10月26日に毎日新聞東京本社で行われ、賞牌と賞金（1件につき100万円）を贈った。

◇認定NPO法人「ホームホスピス宮崎」＝市原美穂理事長（宮崎市）

1998年、県内に緩和ケア病棟を設置しようと発足。2004年には民家を活用、病院や福祉施設で受け入れを断られた難病や介護レベルの重い患者が暮らす「かあさんの家」を開設。「地域で自分らしく生きてもらう」という考え方が新たな在宅ホスピスの先駆けとして注目される。

◇芦沢茂夫さん＝支えあう会「ピーチ&グレープ」代表（山梨県南アルプス市）

両手足に障害があり、車いす生活を送る芦沢さん。車いす生活者の生活改善やバリアフリー化に尽力。2010年には障害者とボランティアで支え合う会「ピーチ&グレープ」を設立。県内の飲食店などに協力を呼びかけ、段差にスロープを設置してもらうなどの活動を進めている。

◇ワット隆子さん＝「あけぼの会(乳がん患者の会)」会長（東京都目黒区）

乳がん手術を受けたことを契機に、乳がん患者の会「あけぼの会」を1978年に設立。次第に家族や医療関係者らも入会するようになり、会員は全国で

3,000人を数える。患者同士が社会復帰のために助け合うことと、乳がん検診の呼びかけなどの啓発活動が会設立以来の2本柱。

(キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8)

◎「歳末たすけあい運動」

11月11日～12月25日にかけて「歳末義援金募集」や「チャリティー名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」などの催しを実施。義援金や収益金で歳末慰問金品や公募福祉助成金を贈った。

*「歳末義援金募集」

社告や特集、これまでの寄付者などへのダイレクトメールで歳末義援金を募った。寄せられたのは871件1,313万円（昨年776件912万円）。15年度の歳末慰問金のほか、公募助成金など15年度の公益事業1（国内外の福祉に関する事業）の資金として活用する。

*「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」

12月12日～14日、毎日新聞ビルのオーバルホールで開催。売上は1,864万円（昨年度1,747万円）となった。本事業収益から、計65万円を歳末慰問金として次の団体に配分した。（支払助成金より65万円を支出）

1. 大阪子どもの貧困アクショングループ	10万円
2. 大阪更生保護施設連盟	5万円
3. 大阪家庭少年友の会	5万円
4. 天理教三重互助園（児童養護施設・三重県伊勢市）	15万円
5. 光輝寮（同・愛知県豊川市）	15万円
6. 白鳩学園（同・岐阜県恵那市）	15万円

*「第48回歳末たすけあいチャリティー指導碁会・碁力認定戦」

（支払助成金3万円、材料費として3万円を支出）

11月22、23日、大阪市北区で開催。収益5万円で囲碁セット3組を製作、漫画「ヒカルの碁」全23巻とともに2月に大阪市が管轄する高津学園、児童院、阿武山学園の3児童福祉施設に贈呈。スポーツニッポン新聞社、日本棋院が主催、本団の単独後援。

◎「指定寄付金事業」（支払助成金より52万円を支出）

寄付金の中で助成先が特定された寄付金。「あしなが育英会に」「愛の手運動に」など、17件52万円が寄せられた。

◎機関紙「そよかぜ」の発行（印刷製本費より14万円を支出）

機関紙「そよかぜ」48号を6月1日に発行した。

その他の名義後援事業

とき	案件名	ところ
4月5日、26日	「第52回全大阪ろう社会人軟式野球春季大会」の名義後援について	大阪府久宝寺緑地軟式野球場・大阪市立長居公園運動場
4月12日	「第35回愛知県聴覚障害者体育大会」の名義後援と野球大会優勝チームへの賞状贈呈について	西尾市総合体育館、善明市民運動広場、西尾公園など。
4月12日	「第33回日本ライトハウス チャリティコンサート」の名義後援について	大阪市北区のザ・シンフォニーホール
4月16日～18日	「バリアフリー2015」の名義後援について	大阪市住之江区のインテックス大阪
4月18日、5月9、17、23、24日	「平成27年度愛知県障害者スポーツ大会」の名義後援について	名古屋市千種区の星ヶ丘ボウル、豊田市運動公園陸上競技場など
4月1日～17年3月	関西いのちの電話「電話相談ボランティア養成講座」の名義後援について	大阪市淀川区の社会福祉法人博愛社5階会議室など
5月8日～11月22日	「第12回名古屋市障害者スポーツ大会」の名義後援について	名古屋市瑞穂公園陸上競技場など
5月21日～23日	「第18回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2015～」の名義後援について	名古屋市のポートメッセなごや（名古屋市国際展示場）
5月31日	「第22回共生・共走リレーマラソン」の名義後援について	大阪市鶴見区の花博記念公園
6月6日	「共に生きる19」の名義後援について	大阪府箕面市の市立メイプルホール大ホール
7月5日	「第32回愛知県聴覚障害者大会」の名義後援について	愛知県長久手市の市文化の家
7月6日	桃山学院大学講演会「ヘレンケラーの手紙」への後援について	和泉市の桃山学院大学和泉キャンパス
7月13日～10月30日（作品募集）、2016年3月22日～3月27日（入選作品展覧会）	「現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト第5回公募展」の名義後援について	大阪市西区の府立江之子島芸術文化創造センター
7月18～19日	平成27年度合同求人説明会「福祉の就職総合フェア2015 in OSAKA」の名義後援について	大阪市浪速区の府立体育会館
7月25、26日	「第28回全愛知ろう社会人軟式野球秋季大会 兼 第40回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会予選選考会」の名義後援と楯の交付について	愛知県岡崎市、岡崎総合運動場
7月30日～8月2日	「第27回ろう教育を考える全国討論集会 in 大阪」の名義後援について	堺市堺区のサンスクエア堺、大阪健康福祉短大
8月4日～9日	「第36回子どもたちの讃歌展」の名義後援について	大阪市立美術館 地下展示室
8月6日～9月7日	全日本若手障害者リーダー育成留学”ターニングポイント@RYUGAKU”の名義後援について	国内とネパール、モンゴル、カンボジア、韓国など
8月7日～12日	「第32回土と水と緑の学校」の名義後援について	和歌山県新宮市の高田地区一帯
8月29、30日	「第20回登校拒否・不登校問題全国のつどいin愛知」	犬山市の名鉄犬山ホテル

	の名義後援について	
8月30日	「第56回大阪知的障がい者福祉大会（吹田大会）」の名義後援について	吹田市の大和大学
9月3日	「第65回施設従事者激励会」の名義後援について	大阪市中央区の「大阪松竹座」
10月3日	生き生き長寿フェア2015「はつらつ健康プラザ」の名義後援について	愛知県大府市、東浦町の「あいち健康の森公園」
10月10、11、17、18日	「第34回スポーツフェスタ2015大阪」の名義後援について	大阪市東住吉区のヤンマースタジアム長居など
10月18日	「ファインエリアフェスティバル2015」の名義後援について	堺市南区のファインプラザ大阪など
10月25日	「第43回全大阪ろうあ者文化祭」の名義後援について	大阪市東住吉区の長居障がい者スポーツセンター
10月30日	「第63回愛知県社会福祉大会」の協賛について	名古屋市中区の愛知県体育館
11月3日	「第60回名古屋市身体障害者福祉大会」の後援について	名古屋市中区役所ホール
11月7日	「第51回肢体不自由児者を支援するチャリティバザー」の名義後援について	大阪府八尾市（通称：買物公園）
11月8日	「身体障害者福祉法施行65周年・知的障害者福祉法施行55周年大阪市記念大会」の名義後援について	大阪市阿倍野区の阿倍野区民センター
11月10日	「第52回点字毎日文化賞」の名義後援について	毎日新聞東京本社（表彰式）
11月19～20日	「平成27年度医療社会事業従事者講習会」の名義後援について	大阪市中央区の大阪府社会福祉会館501号室
11月25日	「第16回大阪救護施設合同文化事業」の名義後援について	大阪市都島区の「太閤園」迎賓館3階がやモトホール
11月26日	「平成27年度大阪府社会福祉大会」の名義後援について	大阪天王寺区の大阪国際交流センター大ホール
12月2日～5日	「第22回ノーマライゼーション絵画・創作展」の名義後援について	大阪市北区（駅前第2ビル5階）の市立総合生涯学習センターギャラリー
12月20日	「第55回愛知県身体障害者福祉大会」の名義後援について	豊田市の豊田市民文化会館
2016年1月22～26日	「第35回『障がいのある子どもに学ぶ』図工展」の名義後援について	大阪市長居障がい者スポーツセンター
1月25日～2月6日	「毎日ドクター無料人間ドック」の名義後援について	名古屋市中村区の毎日ドクター
2月9～2月14日（審査会は2月8日）	「第50回名古屋市障害者作品展示会」の後援について	名古屋市瑞穂区の名古屋市博物館ギャラリー第1、2、3、8室。
2月15日	「第54回衛生教育大阪大会」「第58回公衆衛生大阪大会」の名義後援について	大阪市中央区の大坂薬業年金会館
2月21日	認知症のひとと家族の会 愛知県支部「35周年記念講演会」の名義後援について	東海市のユウナル東海（東海市芸術劇場）、日本福祉大学東海キャンパス

2月28日	難病患者の医療と福祉を考える「府民のつどい」の名義後援について	大阪市中央区のエル・おおさか
3月5日	平成27年度 合同求人説明会「福祉の就職フェアSPRING in OSAKA」の名義後援について	大阪市西区の京セラドーム大阪 9階スカイホール
3月6日	「第34回『耳の日記念』聴覚障害者と県民のつどい」の名義後援について	豊川市の豊川市文化会館
3月17日～20日	「第31回肢体不自由児者の作品展」の名義後援について	大阪市中央区のドーンセンター 1階パフォーマンススペース
3月18日～4月6日	「世界ダウン症の日写真展in大阪2016」の名義後援について	大阪市西区の市立中央図書館1階エントランスホールギャラリー
3月24日	「子どもたちの 未来のためにできること～児童養護施設の現状と課題～」の名義後援について	大阪市北区の毎日新聞オパルホール

公益事業 2 シンシア基金事業（事業種別 3）

（キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分 8）

◎シンシア基金（支払助成金より74万円を支出）

身体障害者をサポートする介助犬への理解を深め、育成や研究活動に役立てるため、1998年から阪神支局が始めたキャンペーンと連動して募金を開始した。2016年3月末までに寄せられた「シンシア基金」は、33件130万円となった。

身体障害者補助犬の社会的認知を促進するため、毎日新聞や宝塚市などで行う実行委員会が主催する身体障害者補助犬シンポジウム（11月29日、宝塚市のアピアホール）の経費として74万円を支出した。

（助成（応募型）事業 事業区分13）

◎シンシア基金助成事業（支払助成金より70万円を支出）

身体障害者補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）支援に関わる団体などに対する公募助成制度。11月に紙面で一般公募し、1月28日に選考委員会を開催。次の2団体に70万円を贈呈した。

1. 社会福祉法人日本介助犬協会（本部は横浜市、訓練センターは愛知県）
30万円
2. NPO法人兵庫介助犬協会（西宮市）
40万円

その他の名義後援事業

- ◇「介助犬フェスタ2015」を名義後援＝5月16日、愛知県長久手市の愛・地球博記念公園内、地球市民センターで開催。社会福祉法人日本介助犬協会の主催。

公益事業 3 災害救助に関する事業（事業種別 3）

災害救援基金事業

◎「災害救援基金事業」

* 関東・東北豪雨災害救援金（支払助成金より858万円を支出）

*2015年度のトピックスで紹介。3ページをご参照ください。

◎東日本大震災救援事業

* 東日本大震災被災者救援金（支払助成金より400万円を支出）

今年度は3月末までに152件558万円が寄せられた（総合計7,680件4億7,736万円）。第14次分として、400万円を9月3日に日本赤十字社に寄託した。今回で大阪社会事業団の寄託総額は4億6,427万円となった。

* 毎日希望奨学金制度（支払助成金より5,184万円を支出）

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支える「毎日希望奨学金」制度（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設）は、5年目を迎え、奨学金基金への募金を毎日新聞紙面などで呼びかけた。今年度分は3月末までに1,078件1,969万円が寄せられた。

（2011年度からの合計13,588件・7億6,616万円：東京・西部分含む）

3月13日付け毎日新聞朝刊で「毎日希望奨学生を募集」の社告を掲載するとともに、被災地の高校や大学などに直接照会をかけた。50人の応募枠に対して76人が応募。5月1日に奨学生選考委員会が開かれ、全員一致で76人に支給が決定。奨学生数は継続者と合わせて217人（高校生123人、短大・大学生76人、専修学校生18人）になった。途中2人の退学者があり、1月25日に今年度最終分を支給、年間合計5,184万円を支出した。

- ・ 4月25日、135人（4、5、6月分） 810万円を支給。
- ・ 6月25日、82人（4、5、6月分） 492万円を支給。
- ・ 7月25日、217人（7、8、9月分） 1,302万円を支給。
- ・ 10月24日、215人（10、11、12月分） 1,290万円を支給。2人退学
- ・ 2016年1月25日、215人（1、2、3月分） 1,290万円を支給。

合計5,184万円

その他の名義後援事業

◇「第25回大阪城JAZZ Festival」を名義後援＝5月23日と24日、大阪城野外音楽堂で開催。大阪城Jazz Festival実行委員会の主催。

公益事業 4 国際協力に関する事業（事業種別 15.16）

（キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分 8）

◎世界子ども救援キャンペーン（委託費より219万円を支出）

毎日新聞社との共催事業で記者を海外に派遣、帰国後に紙面連載で救援をアピールする「世界子ども救援キャンペーン」を展開。国際児童年（1979年）に「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」としてスタートし、アジア、アフリカ中東、中南米などに記者を派遣している。

*2015年度のトピックスで紹介。3ページをご参照ください。

*ネパール地震救援金（支払助成金より1,300万円を支出）

4月28日付、朝刊から「ネパール地震救援金」を募集。3月末までに1,163件1,702万円が寄せられた。1,300万円を下記の3団体に贈呈した。

国連UNHCR協会	（東京都港区）	200万円
アジア協会アジア友の会	（大阪市西区）	600万円（500万円、100万円の2回）
AMD A	（岡山市北区）	500万円

*台湾地震救援金（支払助成金より151万円を支出）

2月10日付、朝刊から「台湾地震救援金」を募集。3月末までに189件165万円が寄せられた。3月11日に台北駐日経済文化代表処に151万円を贈呈した。

*「世界子ども救援金」

読者らから寄せられた「世界子ども救援金」は、3月末現在623件3,869万円。

上記3,869万円の内3,000万円は1人の男性から寄託されたもので、この3,000万円を「MH基金」として、2016年度から23年度までの8年間、経費を含めて毎年375万円ずつ、子どもたちの支援活動に取り組む団体に贈呈する。

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	合計
375万	3,000万円							

世界子ども救援金として「公募助成分」と、紙面で掲載された地域や団体を中心に「取材地助成」、過去の取材地への「継続支援助成分」の3つの助成を行う。いずれも活動内容、実績などから選考している。

（助成（応募型）事業 事業区分13）

◎「世界子ども救援金」公募助成制度（支払助成金より120万円を支出）

海外で支援活動を行う団体を11月に紙面で一般公募し、1月28日に選考委員会を開催。申請のあった6団体の内、次の4団体に各30万円、総額120万円を贈呈した。

1. アイキャン（フィリピンで運営するストリートチルドレンのためのドロップインセンターと児童養護施設「子どもの家」の支援）
2. シエラレオネフレンズ（シエラレオネでの子どもたちの支援活動）

3. ネパール・ヨードを支える会（ネパールでのヨード欠乏症に悩む子どもたちへの支援）
4. マナムニ母子寮関西連絡所（バングラデシュ・チッタゴンにあるマナムニ母子寮での子ども支援）

◎「世界子ども救援金取材地助成」

4 団体へ総額250万円を贈呈

（支払助成金より150万円を支出：100万円はネパール地震救援金より支出）

1. アジア協会アジア友の会 100万円（ネパール地震救援金より支出）
2. 日本ネパール女性教育協会 50万円
3. ラリグラス・ジャパン 50万円
4. 国連UNHCR協会 50万円

◎「世界子ども救援金継続支援助成」

2 団体へ60万円を贈呈（支払助成金より60万円を支出）

1. ハイチ友の会 30万円
2. 難民を助ける会（AAR）30万円

2015年（平成27年）度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2016年（平成28年）3月
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

以 上